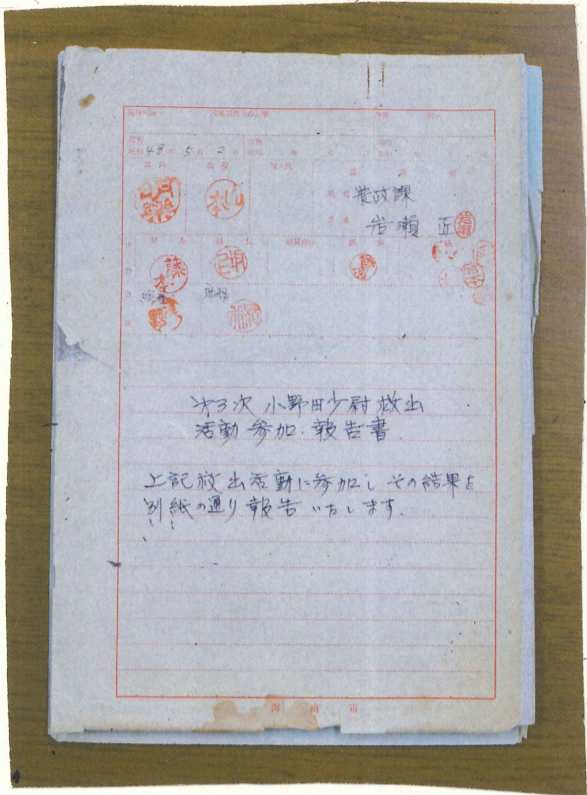


# 約30年の潜伏、小野田少尉帰国前年の救出活動

① 第3次小野田少尉救出活動参加報告書



② ルバング島

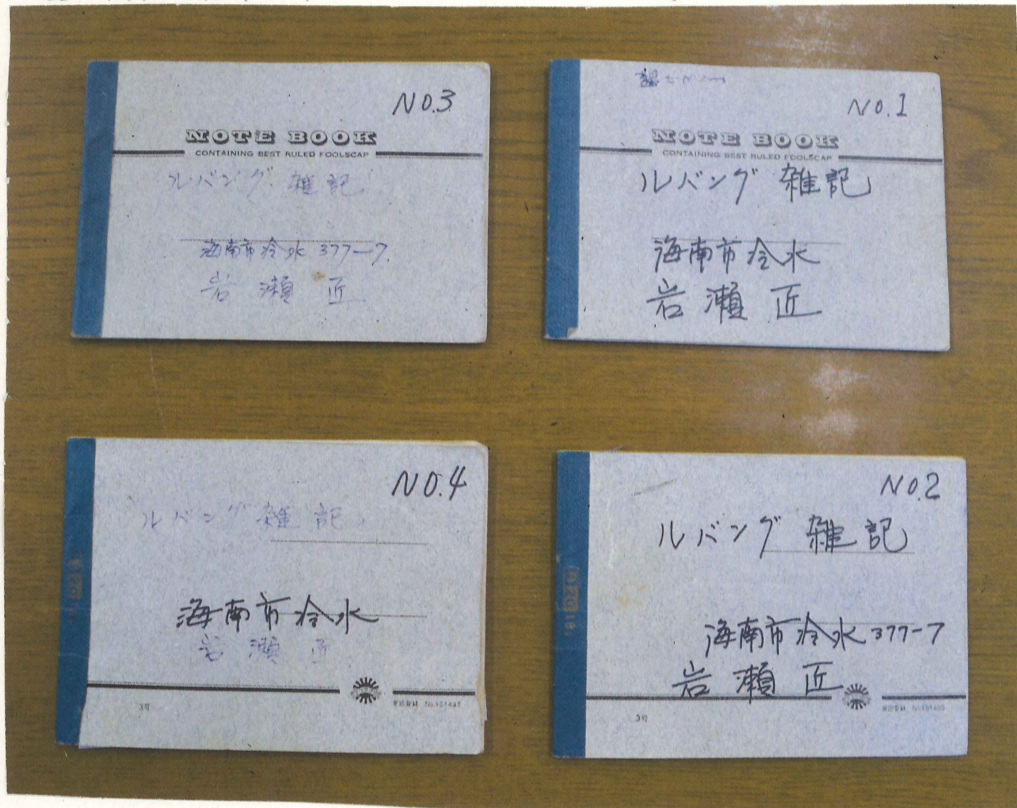


③ 日記と行方メモ

2月23日 海南島第一乗組員 (油面グループ12名)  
 2月24日 乗組 (海南島に於て打合せ、陣中炊事)  
 2月25日 海南島第一乗組員 (パイプ・パイプ・パイプ)  
 2月26日 ルバング島着 小野田少尉に会う  
 2月28日 入山準備 小野田少尉と同行して山に入る  
 2月29日 第一陣中隊入り 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月1日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月2日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月3日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月4日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月5日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月6日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月7日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月8日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月9日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月10日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月11日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月12日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月13日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月14日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月15日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月16日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月17日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月18日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月19日 小野田少尉と同行して山に入る  
 3月20日 小野田少尉と同行して山に入る

3月21日 ビゴ村にて 援軍要請の準備と外務  
 4月1日 捜索隊が5班としてビゴ村上陸に入る  
 4月2日 上陸班と兵隊1名をビゴ村に送る  
 4月3日 小野田少尉と同行して山に入る  
 4月4日 (4月) マス基地まで重宝発見  
 4月5日 小野田少尉と同行して山に入る  
 4月6日 山岳小隊に加入して 島の南西部(パイプバンク  
 "海南島"に上陸する  
 4月7日 パイプバンクとゴンチンクメントの間 425M  
 ビゴ村を中心とした捜索と行方  
 4月8日 小野田少尉と同行して山に入る  
 4月9日 船でパイプバンクとビゴ村を結ぶ  
 4月10日 本陣に到着 全乗組員が集合する  
 4月11日 タンクとパイプバンクに建設された小野田少尉の陣中  
 4月12日 陣中 援軍の到着を待つ  
 4月13日 マニラ第一乗組員 東京路中  
 4月14日 マニラ第一乗組員 東京路中  
 4月15日 海南島第一乗組員 東京路中  
 4月16日 海南島第一乗組員 東京路中  
 4月17日 海南島第一乗組員 東京路中  
 4月18日 海南島第一乗組員 東京路中

④ 4冊の小ノート



出典：和歌山県立文書館所蔵『小野田少尉救出活動参加報告書等』

## 解題 解説

海南省出身である小野田少尉の救出活動報告書や救出活動に参加して岩瀬貞さんの書き

留めた小ノート4冊等の資料。小野田少尉は終戦後もフィリピン、ルバング島で潜伏し、帰国してはいなかった。その生涯が  
 あり、小野田少尉が写っていることが明らかになった。しかしすぐ救出活動は始まる。20年後の昭和49年に活動が始まる。①の写真から  
 今日で第3回目であると思われる。②は島の形と各拠点や舟の位置がわかる。③は④の11に書いてある日記を簡単にまとめた公文書である。  
 この③の後にはその日のことが詳しく書かれている。中には「はじめての海水浴、泳ぐのも歓迎、元で「ルバング島が活動基地に感謝」など  
 楽しんでいるように見える文章もある。また、たき火の跡や火にかけて使った跡のあつぽも見つかるなど、何かしらくらしの跡が見つかっていた。  
 しかし中には足のけがについての文章や「捜索はあと1日、涙が出てくるといふ文章があり、岩瀬氏は決して楽しいことばかりではな  
 わけではなく、大半は必死の捜索活動であった。またタイトルの通り小野田少尉は今日で見つかってはならず、  
 捜索失敗という結果は涙の原因となっていた。

補足 小野田少尉はどのようにして帰国したのか。

引用 永井均『平和の扉を開く』広島大学島根研究所 2019年

発見：第3次小野田少尉救出活動の翌年(昭和49年)に探検家である、鈴木紀夫が発見。

経緯：鈴木がルバング島で日章旗を掲げてテントを設営していると小野田少尉から急襲。小野田少尉と接触  
 した後、小野田少尉を落着かせ、上官からの任務解除命令が伝われば、投降するといふ。その後、元上官の谷口氏により任務解除命令が「出陣  
 日本へ帰国した。

参考文献 『文書館』第43号、平成27年7月